

神楽名

# むらしよ 村所神楽

伝承地

村所地区 にしめらそん  
西米良村大字村所

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

村所神楽保存会  
代表 濱砂 誠二



八幡様

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

村所神楽が継承されている村所地区は、宮崎県西米良村の中央部に位置し、主要道の交点として古くより栄えてきた。

村所八幡神社は、村所地区を見下ろす高台に鎮座する。南北朝時代、米良に足跡を残した後醍醐天皇の皇子である征西将軍・懐良親王を祀る。親王没後の文明3年（1471）に既に建立されていた御川神社に大王宮を合祀し大王宮御川神社と改め、生前好まれた神楽を奉納したことが村所神楽の起源と伝わる。明治4年（1871）に村所八幡神社と改称された。

宮司を中心とした社人は、神楽奉納の全てを受け持つ。幼い頃から神楽を舞ってきた者は、二十歳を過ぎた頃、春彼岸に近い一週間、彼岸籠りの儀を受け、社人の資格を得る。彼岸籠りは、社務所に寝泊まりし、自炊、毎夜川での禊を行い、神楽に関する一切を習得する伝統の儀である。

神楽が舞われる外神屋の注連は、通常の「略注連」とよばれる三本注連と、願によって建立される「本注連」がある。「本注連」では正面に一本注連と、豊受大神勸請の金幣櫓が建つ。

## ◆ 芸能の機会・場所

### ● 夜神楽...毎年 12月

村所八幡神社を中心とした氏子区の各神社の祭り日に近い土・日曜日に奉納

- ・村所神楽: 村所八幡神社 12月18日に近い土・日曜(毎年)
- ・狭上神楽: 狭上稻荷神社 12月第1土・日曜(毎年)
- ・竹原神楽: 竹原天満神社 12月(2年に一度)
- ・横野神楽: 横野産土神社 12月(4年に一度)
- ・上米良神楽: 本山・矢村神社 12月(4年に一度)

## ◆ 演目一覧

しゅばつ 修祓	けんせん 献饌	しめおが 注連拝み		
きよやま 清山	はさみまい 挟舞	じわり 地割	てんにん 天任	へいさし 幣差
だいおうさま 大王様	じいさま なな めん 爺様・七つ面	ばあさま 婆様・七つ面	すみよし 住吉	はちまんさま 八幡様
みたらいさま 御手洗様	ししまい 獅子舞	おおやまづのみこと 大山祇命	しめおが 注連拝み	かんすい 神水
ひとつつぎ 一人劔	びやっかい 白海	ゆみしょうぐん 弓将軍	こうじん 荒神	てい 丁
いせ 伊勢の神楽	だいじんさま 大神様	たちからおのみこと 手力男命岩戸搜しの舞	とかく 戸隠しの舞	手力男命岩戸開きの舞
挟舞	へや 部屋之神	しめたお 注連倒し舞	じょうじゆ 成就の舞	ししとぎり 狩面

※平成30年（2018）12月に奉納された演目に基づく

## ◆ 演目の特徴

村所神楽は「挟舞」<sup>はさみまい</sup>を基本の神楽とし、昔から祭りの始まりと終わりにこの挟舞を入れて、神楽全体の前後を挟み納めた、と聞く。

1番から17番までを「神神楽」<sup>かみかぐら</sup>と総称する。はじめに御降りになる「大王様」<sup>だいおうさま</sup>は懐良親王<sup>かねながしんのう</sup>であると伝わり、ここから南朝に関わる神々、土地の神々が降臨する神事性の強い厳粛な舞が続く。神の舞の前には「幣差」<sup>へいさし</sup>「住吉」<sup>すみよし</sup>といった素面の舞(地舞)<sup>すめん</sup>で場を清め、介添え、神送りまでを務める。

神神楽の終わりを告げる「注連拝み」<sup>しめおが</sup>が終わると、勇壮な「民神楽」<sup>みんかぐら</sup>の時間となり、賑やかな神楽囃子が許される。

全ての演目の終了後に行われる「狩面」<sup>ししとぎり</sup>は、古文書『西山小獵師』<sup>にしやまこじゅうし</sup>より古式の猪狩の様子を再現し、山の神への感謝と今季の豊猟を祈願する。

## ◆ その他の特徴

- 面...大王様、爺様、婆様、七つ面、八幡様、御手洗様、獅子舞、大山祇命、白海、荒神、大神様(姫女面)<sup>ひめじょめん</sup>、手力男命、戸隠、部屋の神、狩面 等
- 楽...太鼓、笛、鉦、法螺貝<sup>かね ぼらがい</sup>
- 装束...白張、白袴、狩衣、素襖、陣羽織、千早、着物、大口袴、黒脚絆、毛頭、烏帽子、冠 等<sup>かりぎぬ すおう じんぼおり おおくちぼかま くるきやはん けがしら え ぼし</sup>
- 採り物...鈴、扇、御幣、面棒、刀、弓、矢、榊、櫻、折敷<sup>めんぼう おしき</sup> 等
- 文書...「西山小獵師文書」は、村所神楽「狩面」復活の基礎資料となった「米良風土記 御神楽」中武雅周著 等  
「米良山の神楽調査報告書」(令和2年(2020)) 等

## ◆ 伝承の現状・課題

社人はもちろんのこと、神楽を支える氏子会の支援体制が構築されている。世話役を務める座前<sup>ざまえ</sup>など、各々に役割があり、全ての力を結集して祭りが斎行される。子どもたちは幼少期より神楽に参加することで、青年期になると彼岸籠りへ参加する意志が強まる。

令和2年(2020)現在、村所神楽保存会は38名在籍、県内外での神楽公演等にも参加し、歴史ある御神楽の保存継承に努めている。



神水



荒神



狩面